

2018年12月16日発行

No.44

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：吉田 茂 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 <https://www.waseda-honjo.jp>

ずぶぬれて犬ころ 幸福そして、希望

学院長 吉田 茂



ずぶぬれて犬ころ／気のぬけたサイダーが僕の人生／若さとはこんな淋しい春なのか、いずれも住宅顕信（すみたくけんしん、一九六一～一九八七）の句だ。彼は急性白血

病のために二六歳で夭折した俳人である。二〇〇八年九月にNHKBSで特番が組まれたり、今年一月に岡山映画祭で本田孝義（一九六八）監督の映画『ずぶぬれて犬ころ』が上映されたりと、彼の人気は衰えず、若者からの支持は根強い。この支持の裡には、満たされぬ若者の思いが潜んでいるように思えてならない。

一方、今年八月に内閣府が公表した「国民生活に関する世論調査」によれば、一八歳から二九歳では、八三・二％の者が現在の生活に満足していると答えている。若者のこの意識の乖離は何なのか。社会学者の古市憲寿（一九八五）がこれにヒントを与えてくれる。彼の著『絶望の国の幸福な若者たち』（二〇一一）の中で「戻るべき『あの頃』もないし、目の前に問題は山積みだし、未来に『希望』なんてない。だけど現状にそこまで不満があるわけじゃない。なんとなく不安。そんな時代を僕たちは生きていく絶望の国の、幸福な『若者』として」と述べる。確かに「made in Japan」が世界を席捲した高度経済成長期は遙か昔のことだし、少子高齢化、格差社会など若者を取り巻く社会環境からは「希望」を見出せない状況であろう。ところが、親にパラサイトしてあれば何とか生活できるし、親に買ってもらったスマホで二四時間いつでも仲間に繋がることができる。その仲間と楽しい時を過ごすのが一番の幸せだ、ということか。この身近な幸福を願う感覚を古市は社会学の造語である「コンサマトリー」という語で規定し、これが先ほどの若者の生活満足度の高さの正体であると分析する。なるほどと思う。しかし一方で、「コンサマトリー」即ち自己

充足、自己完結だけを優先する若者ばかりではないと思うのである。

一月一五日からの四日間本学院は「Waisec」という高校生の国際シンポジウムを開催した。宿泊先の確保、他校との交渉など以外は、学院生自らが準備し、運営する文字通り手作りのシンポジウムであった。すぐに結論など出るはずもない「共生」という難しいテーマに果敢に挑戦した。遠藤竜仁さんを委員長とする実行委員会には一四五名が加わり良く頑張ってくれた。頭が下がる。その一部はほんとうにヘトヘト、疲弊しきっていて、「頑張れ」などという無責任な言葉は掛けられなかった。「早く帰ろう」「早く寝よう」という言葉を口にするのがやっとだった。こうした委員の活動が全学院生を巻き込めたかと言え、それには疑問符も付くだろう。確かにこれに無関心な者もいたし、無関心を装う者もいた。しかし、その中の心ある者は、それには関わらないが、或いは部活に、或いは別のプログラムに邁進するのだという「覚悟」を持った者もあつたように思う。イベント自体が成功だと思いが、このように「覚悟」を持った者が現れたとすれば、大いなる収穫である。

「Waisec」に関わった学院生は、自己充足、自己完結だけを優先する若者ではない。もちろんこれらの学院生にも茫漠たる「不安」はある。この世界には「希望」など存在しないかもしれない。しかし、イベントを作り上げたエネルギーで立ち向かえば、自ずと道は拓かれると思う。

この学院生の姿こそ、小生にとって唯一の「希望」だ。



それぞれの「想い」を胸に

3年A組 高野 凜



稲稜祭実行委員会が足りてから稲稜祭当日までの約半年間、私たち実行委員は稲稜祭に向けての様々な準備に励みました。

幹部は自分のパートの担当の先生を探し求めて教務室や集合教員室に足繁く通い、夏休みには美術パートを中心にして酷暑の中、学院に訪れて校内装飾の制作を行いました。今年度は稲稜祭限定グッズが昨年度までとは大きく変わりました。例年はロゴの入ったシャープペンシルを販売していましたが、今回の稲稜祭ではバレットの表紙やポスターと同じデザイン

のクリアファイルも販売しました。学院生を中心に多くの方々に購入していただき、2日間が無事に完売することができました。また、ステンドグラスの作成や校内の装飾に加え、今年度は校舎裏の新体育館建設に伴い、メインステージや屋上・受付の場所移動など例年通りにはいかず、調整や再考を必要とすることが数多くあつた年でした。しかし実行委員やクラス企画委員、部活動有志団体の皆さんなど多くの方々の協力のもと、当日は大きな問題もなくスムーズに進行することができました。また、昨年度に引き続き、各クラス企画の責任者であるクラス企画委員を立てました。彼らを中心にして、クラス企画は非常に充実したものが作り上げられたと思います。

皆さんは稲稜祭にどのような想いを持って臨みましたか？引退ステージを悔いなく終わらせたい、校舎内の企画を全て回りたい、というように様々なものがあつたと思います。学院の数ある行事の中でメインイベントと言っても過言ではない稲稜祭。千人を超える学院生がそれぞれの想いを胸に抱いて臨んだのではないのでしょうか。

各々で抱く想いは違えども全員が「稲稜祭」という一つの目標に向かっていったことは確かだと思います。早稲田大学本庄高等学院で



Being British, I would have to retitile this column [Tea Break], since we Brits drink copious amounts of the beverage; at least five cups a day! And this made me start thinking about British cuisine and how bad a reputation it has in Japan. So, I hope to whet your appetite with the following three dishes.

The first dish on the menu is the traditional, cooked English breakfast. Many British people will opt for this type of breakfast when on holiday as a treat, or at weekends, since it takes time to make. People usually have bacon, fried eggs, sausages, mushrooms and tomatoes with perhaps some black pudding (which, despite the name, is not sweet at all. It's a rather odd-looking, dark sausage, and many Brits either love it or loathe it.)

Another traditional dish is the Sunday roast. This usually consists of the British staple 'meat and two vegetables', with the meat being either beef, chicken or turkey. This is served with roast potatoes, peas, carrots, and topped with gravy (a delicious sauce made from flour and the juices from the meat while it is cooking). The leftovers of meat are usually eaten the next day with a salad, or in a sandwich, so nothing goes to waste.

If you ever have the chance, I recommend visiting the county of Devon in the south-west corner of England, if only to experience the local 'cream tea'. Butter and jam is spread over a scone, with a healthy dollop of clotted cream on top. This cream is a local product and is extremely thick and rich in flavour. And of course, the cream tea wouldn't be a cream tea if it weren't for a pot of piping hot tea covered with a quaint tea cosy for presentation.

So I hope I have swayed (however slightly) your opinion of British food and hope you have the chance to actually try the dishes I've recommended. After all, the proof of the pudding is in the eating!

MG



修学旅行を 振り返って

3年生は10月に台湾・韓国・中国の3コースに分かれて修学旅行へ行きました。

台湾の日の思い出

3年E組 加倉 瑞己

今回の修学旅行は自分にとって初めての海外旅行となりました。幼い頃から海外に行く事には「治安」「食文化」などの観点からとても抵抗があつて、今回の修学旅行先に台湾を選んだのも「反日感情がおそらく一番少ないから」という消極的な理由であつた。ですが今回の修学旅行を通してそのイメージを払拭できればと思ひそれなりに修学旅行の日を心待ちにしていました。

一日目、始めての出国審査等の手続きに非常にドキドキしながら通過して成田空港から約3時間のフライトを経て桃園空港に着。空港の外に出たときに日本と明らかに違う何かを感じて、キラキラやドキドキをとて感じました。エモいってやつですね。その後晩飯を済ませた後はホテルで休みました。「現地のコンビニ」に台湾限定のエナジードリンクないかなあ」と思つて見慣れないドリンクを買つたらそれが「精力剤」だったのが判明した時は班員で笑つてしまいました笑。

二日目、まずは九分に向かいでしたがその時は生憎の雨で少し残念でした。しかし、九分の頂上から見えた霞がかつた神秘的な景色は「千と千尋の神隠し」の世界観に何かに似ているものを感じました。その映画の世界観を感じながら九分を歩き回つて自分の班は「阿妹茶樓」という茶店に寄りました。私たちの担当をした店員さんが日本語がペラペラで、台湾に日本人が多く旅行していることをとても実感しました。お茶もお菓子もおいしくてまたここに来たいと思いました。その後は十分に移動し天燈上げを行いました。自分はクイズ研究会に所属しているので「今後の大会で優勝したい」という願いを大きな天燈に描いて空に飛ばしました。昼食後はバスで台中へと移動し夜ご飯を夜市中で済ませました。あちらこちらから漂う臭豆腐の匂いが強烈な中「大腸包小腸」というホットドッグのような食べ物を食べました。高を括つて

「大辛」の味付けを選んだらめっちゃくちゃ辛くて悶絶しました。台湾の「辛」には気をつけよう！

三日目、今回のメインイベントとなる台中一中との交流でした。自身のパディであつた彼は日本の文学特に村上春樹に興味を示して自分にも文学に関する教養があつたお陰か会話がとても弾みました。クラブは医療系の部活を選択し新鮮な豚の心臓を解剖しました。心臓を握つたり切り裂いたりしたりの経験となりました。英語の授業内で現地の学生が度々日本のアニメの事をよく知つていたりと日本文化はやはり海外にも通じるのだと嬉しかったです。あつという間に楽しい時間は過ぎていきました。

四日目、班員との自由行動で様々な観光スポットに向かいました。朝は龍山寺を見学し、日本とはまた違ったものを感じました。その後は西門町という繁華街へと向かいました。これまで見た古風な風景とは真逆のとても賑やかで多くの店が立ち並ぶ様子は「台湾の渋谷」でも称せるものでした。日本の音楽ゲームが置かれているのを見たときはとても驚きました。その後は台北101に行きました。これまで自分が上つたことのある建造物の中で一番高く台北を一望することができました。その後は美味い氷の店に行きました。インスタ映えもして味もとても良くてここに来て正解だとも満足しました。最終日、中正記念堂と故宮博物院に向かいました。中正記念堂では朝、門が空く瞬間を見たり監視をしている兵隊の姿を見ました。故宮博物院では有名な白菜を始めとする多くの文化的な作品を楽しみました。訪れたすべての場所に満足できました。

とても有意義な時間を過ごせたのは、共に5日間行動した個性豊かな班員のお陰でした。彼らとの時間をこれからも大切にしたいと思ふ旅行でもあり本当に様々なことを学び自分の物にすることができました。機会があれば同じメンバーでまた台湾に行きたいと思いました。

最後に、この修学旅行に関わっていただいた全ての方々に感謝をしたいと思ひます。様々な人の支えによって今回の修学旅行を無事に終えることができたと思ひます。本当にありがとうございました。



高井ファミリーと行く クリティカルな5日間

3年E組 清洲 青空

みなさんこんにちは。韓国班班長の清洲です。今回私たちは、世界で一番クリティカルな男高井先生と、学校のアイドル大塚先生、グローバルな男ジョージ先生の元約40人という少人数で韓国に行つてまいりました。今回の旅の特徴は少人数であつたため移動も楽でしたし、何と言っても高井先生の解説を5日間も聞くことができてとても濃い5日間を過ごすことができました。

今回、私が韓国班代表として一筆欲しいということなので、今回特に思い出に残つたことをいくつかピックアップして紹介したいと思ふ。全部書いてしまつるととてもこのコーナーには入りきらないので、はじめに韓国と日本の違いは何？と疑問に思う人も多いだろう。私も韓国に行く前は、「どうせ新大久保と変わらないだろ。」と思つていたし、ソウルの写真を調べて見ても、あまり日本と変わりは感じられない。しかし、実際に韓国に到着してみると私たちが暖かく迎え入れてくれたのは、純白の「まき」である。韓国の山肌にある「まき」を見てみると、「ああここは安定陸塊なのだなあ。」と心から感じる事ができる。冗談はさておき、韓国の風景はとても幻想的である。簡単に言うのなら、田舎の山々のなかに都市が発展しているのだ。日本と比べてみると、韓国は人間が自然とうまく共存しているように思ふ。

次に、非武装地帯DMZについて言っておきたい。これは韓国コースのエッセンスである。DMZといえば韓国側から北朝鮮に向けて「NoGo」の曲を大音量で流している、韓国はこんなにもいい国だという放送をガンガンに流しているイメージがあつたが、私たちが訪問した際はとても静かで、北朝鮮の非核化に対する積極的な動きが緊張緩和に少なからず影響しているのを感じることができた。その一方で北朝鮮がかつて秘密裏に掘つていたと言われている「第三トンネル」の見学を終えると、北朝鮮が世界各国から信頼を得ることの難しさを感じることもできた。

「キムチ、キムチ、キムチ」韓国の食事にについて述べるとやはりこの言葉になつてしまふ。毎食食卓に並ぶのはキムチだ、キムチ好きにはたまらない旅を送れることを保障しよう。韓国の料理で欠点を挙げるとすれば量だろ。3日目、4日目になるにつれて量は増えていったものの、やはり満足いく量を食べることはできないだろう。どれくらい満足いかないか、一瞬でわかる例を挙げるとするなら、一緒に行った韓国班の女性陣たちが、毎晩部屋にチーズチキンをはじめとしたファストフードのフルコースを用意していたことからわかるであろう。量はイマイチだがやはり高い旅費を払うだけあつて、味は格別である。私が特に印象に残つた料理は「参鶏湯」である。鳥が丸々一羽鍋の中でグツグツ煮込まれていてその中に熱々のご飯が入っているのである。是非楽しみにしておいてもらいたい。

最後に韓国との学校交流について述べておきたい。韓国の学校交流を一言で表すと、「早い」であろう。おそらく他のどの班よりも交流時間は圧倒的に短い。まずバスを降りると会議室に案内され、日韓それぞれ代表者が挨拶を終え、私たちがダンスを踊り、靴に色を塗つて終わりである。交流時間は二時間半！超最速の交流である。そのためこの交流から得られる経験は少なく感じた。修学旅行として海外の高校と交流する機会があるのにも関わらず、何か我々が迷惑であるかのような慌ただしさを感ずることもあつた。この経験から、あまり学校交流に期待を持たない方が良さだろう。予定より大幅に短縮された日程を高井先生のおかげである。我々は空いた時間で高井先生に導かれて慰安婦像を見学することができた。本当に高井先生の行動力に感謝しかない。



この感想文の目安である1500字に達し、この感想文を電車ですいている私の心は「まだまだまだたくさん喋りたいんです」という気持ちでいっぱいである。この感想欄を楽しく読んでくれた皆さんありがとうごさいます。早稲田本庄の修学旅行の思い出はこんな小さな欄に収まるはずがないのです。修学旅行は是非韓国へ！とは言いませんが、それぞれの国に、それぞれの良さがあります。ぜひ楽しんでください。

中国北京報告

3年G組 大坪 慎太郎

読んで頂く前に簡単に日程について。一日目、北京到着。二日目、天安門と万里の長城。三日目、北京大学付属中学生との交流と北京大学散策。四日目、自由散策と雑技鑑賞。五日目、天壇と帰国。

北京の空は青かった。夕刻、陽の沈みゆく北京に降り立った。北京に行くのは実に十一年ぶりである。〇二年から〇七年まで在住していた私にとって「里帰り」だ。北京についての紀行文は世の中に掃いて捨てるほどあるため、もつと普通のことにも目を向けてみたい。勿論、景勝地を直に見るのも、歴史的意義について学ぶのも重要だ。しかし座学では学べない政治や中国人の日常について学ぶ意義も劣らざらると思う。さて、修学旅行では何か大きなことを学ばねばと気負う。だが小さくとも、日本では学び得ないこともある。私は海外に着いたと実感するのは預け荷物の受け取り場だ。荷物が鈍い音を立てて無造作に上のレーンより落ち、下のレーンによって一周する。日本の空港であれば苦情が来るであろう。しかしこれを見て私は海外に来たと思ふのである。

北京に話を戻すと、空は最終日以外青かった。訪れた場所の中で最も恩恵を受けたのは万里の長城であろう。その美しさは写真でご覧くとして、長城にて面白い疑問を聞いた。「人はともかく馬はそもそもこの山々を長城なしでも通れないのでは」と。しかし、歴史は嘘をつかない。北方の遊牧民族は幾度も長城を越え、時に王朝を築いた。馬はあの長城を越えるのである。

北京大学附属中学との交流では各自パディに連れられて授業や昼食に行く。私は数学と地理であつた。地理の時、私はバディと授業を半分聞かず政治の話をした。要約すると「共産党政権は経済成長や治安維持の役割は大きく、その点は正しいと思ふ。しかし検閲をはじめとする言論統制や天安門事件等の弾圧は馬鹿げている」と。この評価の仕方に日本人は学べきだ。日本では現政権に賛否を表明できても全肯定か全否定しかない人が多。人の評価は零か百かではない上に、政治は評価項目が一つではない。また、バスガイドの方は「共産党の一党独裁は悪い側面も含む。しかし人口十三億人の中国

を統治するのに民主主義という手段は難しい」と仰つた。確かに中国の歴史上、民主主義的統治を行なつた期間は無いように思ふ。果たして、今の中国に適切な政治体制とはどれなのか？

ホテルでの朝食は美味しく、友人との話も盛り上がる。しかし日本でも出来ることではないか。そう思い、朝食会場を飛び出し、ホテルの敷地内の散歩。朝は少し冷えるが風が心地よい。私と同じように散歩や器具で運動している中国人や敷地内の謎の美術作品を眺める。確かに、北京動物園のパンダや南锣鼓巷の店、天壇公園を回るのも楽しい。だが私は地下鉄駅の階段や道路で煙草をふかす人、道に立つやる気の無い警備員、対照的な武装警察、某特撮作品の偽物フィギュアを売る店員、やたらと声をかけてくる商人。天壇の隣の公園で多数の中国人が運動器具を利用する風景、鉄棒で細い中国人の老人と筋骨隆々な欧米人が競い、妙な友情が生まれ、観衆が盛り上がる場面。これらを見ている方が格段に楽しいのである。ちなみに、最後に挙げた公園だが国家体育总局の寄付と記されており、いかに国家が民衆の生活に密接に関わっているかを垣間見ることが出来る。

集団で名所を巡るのも学べることは大いにある。しかし、隙間の時間に独りで裏を見に行くのもまた有意義だと感じる。文字数の制約上、触れる余裕のなかった箇所が多々ある。あとは是非「ご自身の目で」。最後になりましたが、引率の上野先生、田邊先生、福永先生、三崎先生、JTBの添乗員の方々、バスガイドの方々、バスの運転手さん、その他陰で支えてくださった全ての方々に厚く御礼申し上げます。 謝辞。



スーパーグローバルハイスクール(SGH)の取り組み

WaISEC -- “From ‘IMPOSSIBLE’ to ‘I’ M POSSIBLE’ ”

SGHは「グローバル人材を育てるカリキュラム開発」を目的とした、5ヶ年の実践教育研究である。指定4年目にあたる今年度は、授業内・授業横断型プロジェクト、および国内外でのフィールドワークが核となる各プロジェクトでの過去3年の経験を活かした実践研究の継続に加え、SGHの学校ぐるみの里程として国際高校生シンポジウム WaISEC (Waseda International Symposium on Education and Culture)を実施した。国内外ゲスト校（北京大学附属中学、安養外国語高校、台中第一高級中学、マヒドール・ウィッタヤヌソーン校、ハナ・アカデミー・ソウル、ジョグジャカルタ第2高校、県立不動岡高校、早稲田大学高等学院）、フィールドワーク訪問先（石坂産業株式会社、埼玉県自然学習センター、小諸エコビレッジ）、および本学院保護者の会、同窓会の大きなご協力とご支援をいただき、生徒の手で水準の高い国際シンポジウムの運営が可能なることを実証できた。心から感謝申し上げたい。プログラム概要は以下の通りで、英語を「公用語」とした。

- | | |
|--------|---|
| 14日(水) | 学内準備日、海外ゲスト到着日 |
| 15日(木) | ゲスト到着、3年生および1年生による歓迎行事、開会式、文化交流 |
| 16日(金) | 基調講演、研究発表(口頭)、ポスターセッション
(2年生は全員5・6時間目参加) |
| 17日(土) | 3か所でのフィールドワーク、学校混成グループでの協働成果報告準備 |
| 18日(日) | 協働学習成果報告、閉会式、お別れイベント、ゲスト校出発 |

この項ではWaISECの準備をメインに報告する。

◆WaISEC生徒実行委員会発足と学びのシラバス作り(4月～6月)

過去3年間にSGH事業運営に大きな力を発揮してきた生徒委員会は、入念な準備をしてWaISECを成功させたいとの意気込みで、4月の始業式から実行委員の募集活動を始め、1～3年生の約150人が実行委員として登録。発足から6月にかけて何度も説明会やミーティングを開き、「執行部」「パディ」「司会」「パンフレット」「デザイン」「フィールドワーク」「会場設営」「SNS発信」担当に分かれて活動を開始した。

◆大会コンセプトとプログラムの骨子作り(7月～9月)

この時期のWaISEC実行委員会の、妥協を許さない連日の議論と準備が、本番の成果をもたらしたと考える。

大会テーマは「アジア 一人と人、人と自然の共生」とした。幅広い研究成果を受け入れられるテーマだが、もう少し絞った問いを立てるべきだと生徒は考え、(1)「共生」とはどのような状態と考えるか、(2)「共生」のために高校生は今何ができるか、という切り口を提示した。司会チームは、これまで本学院生徒が参加した国内外の高校生学会をモデルとしながら、研究発表に求められる水準とフォーマットを整理して発信した。フィールドワークチームはWaISECを締めくくる責任を深く認識し、3か所の訪問先選択と事後のディスカッションのための問いを立てた。3つの訪問先の窓口となった方々は、当日のプログラム作りを高校生が直接ご相談することを快く認め、貴重な学びの機会を提供してくださった。

◆実行に向けての直前準備(10月～11月)

国内外ゲスト校とのやりとりも本格化。授業内プロジェクトや夏のフィールドワークが核となる研究課題の生徒は、英語での発表の準備と取り組み、半田先生による研究発表ポスター制作指導や司会者チーム企画のリハーサルに臨んだ。10月13日には早稲田大学WAVOCの平山雄大先生による講演会『共生とは何か』を開き、「共生」について考察を深めた。パンフレット編集・資料や記念品の製作、何度にもわたる会場確認、懇親会や宿泊・送迎の手配、特設ウェブサイトの発信など、PCを抱えて走り回る実行委員が目立つようになった。事前申請の上での基調講演等の参加(公欠)を認められ、各クラスの実行委員がLHRで熱をこめてPR。発表概要も配布され、授業ぐるみでの聴講希望も一気に増えた。

実行委員と研究発表メンバーは、対面とSNSで絶えず情報交換や相談を繰り返し、見事な連携プレーで「学会」を運営した。辛い、苦しい場面がいくつもあったことも承知している。ゲスト校からの事後コメントでは、運営と見事さと苦労をたたえるものばかりだった。

本項の副題は、最終日の発表の中で、台中一中の生徒が使った表現をお借りした。課題は山積していても豊かな地球はきっと守れる、という文脈だったが、WaISECに注がれた高校生の力を表しているように思っている。

さて今、研究期間を終え、生徒の目の前に立つ日々を過ごしています。6限の授業であっても「待つてましたー」とか「たつぷりー」とか言われるよう、気持ちを新たにしくれぐれもあくび指南との誹りをうけないように、と自戒しながら。

そこで教科書代用教員にもならず、地獄にも落ちずに済む方法を落語から拝借しましょう。一般に落語家は師匠をはじめとする先輩たちから断を教わります。その上で自分なりのオリジナリティを出すために、教わったことを起点とし、断の背景や人物像を考え、演出を変えたり、断を再構成したり、サゲを変えたりし、話を自分のものにしていきます。例えば断の筋を上手に追うだけでは不十分であるという次のエピソードがあります。志の輔は二つ目時代に、観客を沸かせ、聴きやすい落語ができたと思っても、師匠の談志から「お前、今の落語で何が言いたかったんだ?」と言われたそうです。つまり語り口が良くて、メッセージがない断は失格だということです。では数学の授業ではどうでしょうか。数学は論理的に完結しているので、公式や定理の結論(サゲ?)は変えられませんが、しかし数学の授業でも、語り口良く生徒へ丁寧に説明し、理解させるだけ(この時点で教科書代用教員以上なのですが)では不十分で、教師からのメッセージがはつきりとした授業は失格なのでしょう。近年では「アクティブラーニング」や「主体的対話的」という言葉が我々の業界で躍っています。こうしたムーブメントを懐疑的に考えたり、胡散臭く感じたりする教員の声をよく耳にします。それはまさに、志の輔のエピソードにある「メッセージ」の問題なのでしょう。つまりメッセージもなく、ただ形式的にグループ学習をする授業というのは結局失格ということになるでしょう。

さて今、研究期間を終え、生徒の目の前に立つ日々を過ごしています。6限の授業であっても「待つてましたー」とか「たつぷりー」とか言われるよう、気持ちを新たにしくれぐれもあくび指南との誹りをうけないように、と自戒しながら。

理数関連プログラム報告

1. 中国生徒の来校(7月23日)

中国全土から選ばれた生徒28名と教員2名が本庄学院を訪問し、「お味噌汁づくり」「歓迎お茶会」「実験教室」などの交流を行いました。このプログラムは科学技術振興機構JSTのさくらサイエンスプランの1つとして実施されています。



2. 「これがサイエンスだ!ゼミ合宿」実施

7月26日(木)から28日(土)に本庄キャンパスでゼミ合宿が行われました。生徒たちは学年の枠を超え、昼間は数学AB・生物・情報パートに分かれ、各教科ごとに活動し、夕方はコンピュータ将棋協会瀬澤武信会長(早稲田大学教授)による特別講義「コンピュータ将棋の歴史と展望」、2日目の朝には2人の教員による物理学のジョイント講義が行われ、素粒子や重力に関する最新の研究が紹介されました。最終日にはまとめとなる合同発表会を参加者全員で行いました。フィールドワーク、講義やワークショップ、宿泊がすべて学内で行うことができるのは本学院ならではであり、生徒もいつも通っている本庄キャンパスの研究活動の場としての側面に触れ、新鮮な気持ちで意欲的に取り組んでいました。

3. International Intelligent Ironman Creativity Contest 2018(IICC)

このコンテストは2003年度に、台湾高校生の創造力養成を目的に台湾教育部主催で開催されました。2005年度に国際大会になり、本庄学院はその年から毎年日本でただ一校招待参加しています。今年度は台北の世新大学を会場として7月27日～30日の日程で開催されました。参加者は3年中川こころ・小川いぶき・2年鈴木心愛・内田南・井上絵理、1年小林綾香です。



4. 国立天文台見学

8月1日(水)に国立天文台三鷹キャンパスを訪問し、国立天文台の最先端研究テーマなどについて、JASMINE検討室長郷田直輝教授をはじめ関係スタッフに解説していただきました。宇宙の研究でも活用しているプラネタリウム(4D2Uドームシアター)では現在観測可能な宇宙マップを地球から宇宙の果まで3Dによる多様な視点で宇宙の仕組みについて学びました。大型低温重力波望遠鏡(KAGRA)のベースとなったTAMA300の見学では、重力波を検知する原理について学びました。

先端技術センターではALMA望遠鏡等に使われている電波受信機の組み立て現場を見学しました。

赤外線位置天体観測衛星(JASMINE)、口径30m超大型望遠鏡TMT計画など宇宙のフロンティアに挑む日本の最先端研究について体験した一日でした。

5. Singapore National Junior College(NJC)との交流

NJC訪問を8月1日～8日の日程で実施しました。参加者は3年大橋彩里・加藤由起・吉井萌実・上野ほか、2年大富雄生・内田南・杉本りな子・井上絵理・松本綾香です。このプログラムは単に学校訪問だけではなく、共同研究を軸にしているところがポイント

です。今回はシンガポールの独立記念日(8月9日)が近かったため、それにちなんだ学校のイベントを見ることができたのと、NJC開校50周年記念式典としてエスプラネード(通称ドリリアン)でのオペラも見ることができました。

逆にNJCの生徒9名教員1名が11月6日～13日の日程で本校を訪問し、博物館見学・研究施設・企業見学・早稲田大学のTWIns見学などを行いました。



6. カミオカンデ見学

8月23日(木)から24日(金)の2日間、スーパーカミオカンデ等日本が誇る最先端研究施設の見学および研究者等との意見交換を本学院生徒22名が体験しました。23日は神岡鉱山に設置されたスーパーカミオカンデ(Super-Kamio kande)、カムランド(KamLAND)、かぐら(KAGRA)、24日は野辺山天文台を訪問しました。

スーパーカミオカンデは世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置で、ニュートリノに関する様々な研究が行われています。今年は12年ぶりの大規模改修工事により50,000トンの超純水を蓄えたタンク(直径40m、深さ41.4m)内の超純水がほぼ抜かれた状態で、タンク内の光電子増倍管(約11,200本)が見学できる貴重な機会となりました。

7. 小笠原研修

今年度は8月26日から30日までの日程で3年小林茉奈実・高山実女・秋庭京香・田村莉乃・角田恵理・松田梨沙・内田梓生、2年高山美恵・富木良・杉本沙弥・杉本りな子・新井律子、1年田島玲が参加しました。母島観光協会のご協力下、母島子供科学教室、堺ヶ岳の植生・グリーンアノールについてのフィールドワーク、ジュノーケリング教室、小笠原太鼓教室、南島ツアードルフィンスイムと例年以上に多彩な内容をご案内することができました。



8. Japan Super Science Fair 2018(JSSF)

JSSFは世界最大規模の高校生科学シンポジウムです。今年度は11月14日から18日までの日程で立命館大学琵琶湖草津キャンパスを会場に、19か国150名の教員生徒が集合して、研究発表を含む様々なプログラムを行いました。3年秋庭京香、2年畑山美帆・杉本りな子(NJCとの共同研究)が参加しました。

9. 特別講義「これがサイエンスだ!」

学院生の科学への興味のきっかけになるように、主に学院教員による科学特別講義「これがサイエンスだ!」を実施しています。

- 第1回(5月23日)「有限幾何学と組合せ論」(数学科:太田洋平先生)
第2回(6月8日)「p進数の不思議～新しい数の世界」(数学科:根本裕介先生)
第3回(6月13日)「人体の構造からみたスポーツ」(生物科:矢野健治郎先生)
第4回(6月20日)「人工知能とプログラミング」(数調二郎事務局長)
第5回(11月2日)「人工知能と物理学」(数学科:峰真如先生)
第6回(11月9日)「近似する数学」(数学科:成瀬政光先生)
第7回(11月16日)「サイバーセキュリティ最新動向」(情報科:飯島涼先生)
第8回(11月17日)「岩石から読み解く過去の地球環境」(地学科:大澤雅仁先生)

10. 地域貢献(5月31日以降)

- ※藤田小～西小は河川研究班(3年熊谷琴葉・秋庭京香・内藤里紗・小川いぶき・上野ほか・中村華英、2年井上絵理・内田南・松本綾香・新井律子・飯野七夏・小澤七菜)が担当
※藤田小との合同河川調査(6月13日)
小山川・元小山川の河川調査(生物・水質)を行いました。
※藤田小での第3回講義(7月4日(水))
花の形の面白さについて、ランを例にとり講義と実験を行いました。
※藤田小での第4回講義(9月12日(水))
5時限目循環小数の性質、6時限目ペン型顕微鏡を作る実験を行いました。
※藤田小での第5回講義(9月19日(水))
正多面体の話題を扱いました。5時限目オイラーの多面体定理、6時限目正四面体・正六面体にどのような膜が貼るかを実験させ、表面張力の話題に結び付けました。
※藤田小との合同河川調査(10月24日)
小山川・元小山川の河川調査を行いました。
※藤田小での第6回講義(12月12日)
3月の市民シンポジウムに向けて、プレゼンテーション指導を行いました。
※南小での講義(7月13日(水))
5時限目は水と人間の関わり、水汚染の問題を講義し、6時限目にバクテスタを用いて小山川・元小山川・男堀川・女堀川の比較実験を行いました。



- *旭小での講義(10月17日)
「水とエネルギー」「川と水質」「川と生物」の3グループに分けて講義と実験を行いました。
*西小での講義(10月31日)
電気と磁石の関係について講義をし、「磁石に何がくっつくか」「渦電流」「レモン電池」の実験をしました。
*共和小での講義(12月5日、教員2名が担当)
発電の仕組みの講義の後、風力発電キットを用いて実験を行いました。
*東小での講義(12月7日、3年新井康太、2年杉本りな子・紀州彩希・向姫寧・渡辺愛美・飯沼愛乃・関智美)
4班に分け、「磁石と電気の関係」「川と生物」の講義を行いました。
*北泉小での講義(12月11日、2年杉本りな子・紀州彩希・向姫寧・渡辺愛美・飯沼愛乃・関智美)
2班に分け、「磁石と電気の関係」「川と生物」の講義を行いました。
*市民総合大学で講義(7月22日、3年上野ほか、2年内田南・松本綾香・杉本りな子、1年増淵光)
「ちりめんモンスターを探そう!」をテーマに、未精製の縮緬雑魚から生き物を探し、採取された海の状態を想像しました。

落語と数学

成瀬政光

教員コラム

木もれ目



2018年3月 数学教育学会 馬場奨励賞受賞状の様子

生徒達の活躍

◆ソフトテニス部(男子)

関東大会 男子個人戦(6月3日@茨城県水戸市総合運動公園)

儘田雄士(2 C)・玉貫陽都(1 E)ペア、宮下皓志(3 F)・小林太一(3 D)ペアが出場しました。儘田・玉貫ペアは2回戦からの出場で2－④、宮下・小林ペアは1回戦④－1、2回戦(第1シードと対戦)1－④でした。インターハイ県予選会(個人戦6月5日@狭山智光山公園、団体戦13日@熊谷さくら運動公園)

個人戦ベスト8：宮下・小林ペア、吉江隆一郎(1 D)・小山修(3 A)ペア。

団体戦第3位(1回戦③－0草加、2回戦②－1春日部、3回戦②－1川口市立、準決勝1－②松山)

※個人戦で2ペアが学院男子ソフトテニス部初となるインターハイ出場を決めました。団体戦でも学院ソフトテニス部初となる県大会第3位となる活躍を見せました。埼玉県選手権大会 高校男子個人戦(7月22日@熊谷さくら)

ベスト16：宮下・小林ペア、ベスト32:儘田・玉貫ペア。インターハイ 男子個人戦(8月4日@三重県鈴鹿市三重交通Gスポーツの杜)

宮下・小林ペア、吉江・小山ペアとも1回戦敗退でしたが、出場までに強化練習会・合宿、練習試合を重ね、大会会場でインターハイ独特の雰囲気を感じたことは、非常に良い経験となりました。

宮下・小林ペアは、埼玉県高校ソフトテニスランキング第8位となり、11月に表彰を受けました。

新人戦北部地区予選会(個人戦9月14・16日、団体戦19日@熊谷さくら)

個人戦 枠外(予選免除)儘田・玉貫ペア、ベスト8：吉江・河野棕也(1 H)ペア、ベスト16:丸山翔大(2 H)・中島峻輔(1 C)ペア、以上3ペアが県大会出場権獲得。

団体戦 ベスト8(県大会出場権獲得):2回戦③－0深谷商、3回戦1－②本庄東。

新人戦県大会(個人戦11月10日@熊谷さくら、団体戦14日@狭山智光山)

個人戦:ベスト32儘田・玉貫ペア、吉江・河野ペア、団体戦:1回戦1－②春日部。

◆ソフトテニス部(女子)

新人戦北部地区予選(個人戦9月15日、団体戦19日@熊谷さくら)

個人戦 小澤七菜(2 G)・樋口凜(1 F)ペア ベスト24、県大会出場権獲得。

団体戦 第7位、県大会出場権獲得。

◆陸上部

秋の新人戦、県北大会では多くの選手が入賞、自己ベストを出し県大会に出場、県大会でも好記録をマークし夏の練習の成果を発揮しました。また男子は1500mで野口さん、棒高跳で関さん、吉田さん、女子は円盤投で栗島さんが関東大会に出場を果たしました。高校駅伝埼玉県予選では男子1区でトラブルが発生し83位で櫛を渡し、その後の区間で懸命に追いつけるも昨年よりも順位を下げて39位でフィニッシュ。女子は各区間で奮闘し昨年よりも順位を一つ上げ17位となりました。シーズンも終り、来年度に向けて部員は日々冬季練に励んでいます。

県北大会

男子入賞者

100m 1位 平野 颯人(2) 10”86

4位 渡部 晃久(4) 11”28

200m 1位 平野 颯人(2) 22”49

400m 3位 若林 樹(1) 51”44

5位 中島 実(2) 52”34

1500m 4位 野口 文也(2) 4’10”87

5位 小薬 空(1) 4’11”49

5000m 2位 野口 文也(2) 15’32”92

400mH 2位 若林 樹(1) 56”80

4x100mR 2位 早大本庄(宮澤 優輔(2) 平野 颯人(2)

広沢 琉海(1) 田中 千李(2)) 43”64

4x400mR 1位 早大本庄(中島 実(2) 森田 浩紳(1)

小薬 空(2) 若林 樹(1)) 3’25”59

走高跳 4位 田中 千李(2) 1m75

4位 牛田 直希(2) 1m75

棒高跳 1位 関 亮也(2) 4m10

走幅跳 1位 堀切 王貴(2) 6m65

男子総合 2位 早大本庄(トラック2位フィールド4位)

女子入賞者

100m 1位 今西 奏乃(1) 12”66

200m 5位 松永 恵(2) 27”65

800m 8位 飯野 七夏(2) 2’28”68

400mH 5位 為田 夏実(1) 1’13”12

5000mW 4位 野村 音々(2) 7 31’27”22

4x100mR 1位 早大本庄(高野 栞(2) 松永 恵(2)

内田 遥子(1) 今西 奏乃(1)) 51”12

4x400mR 3位 早大本庄(為田 夏実(1) 飯野 七夏(2)

高野 栞(2) 中村 友香(1)) 4’19”96

走高跳 2位 高野 栞(2) 1m45

8位 龍崎 理々湖(2) 1m25

走幅跳 1位 今西 奏乃(1) 5m20

7位 植木 千尋(2) 4m71

円盤投 1位 栗島 優都紀(2) 31m53

やり投 6位 井上 絵理(2) 28m13

女子総合 4位 早大本庄(トラック4位 フィールド5位)



県大会

男子入賞者

400mH 7位 若林 樹(1) 57”08

4x400mR 1位 早大本庄(中島 実(2) 平野 颯人(2)

森田 浩紳(1) 若林 樹(1)) 3’24”57

棒高跳 1位 吉田 英晃(1) 4m10

3位 関 亮也(2) 3m80

走幅跳 4位 堀切 王貴(2) 6m81 男子フィールド 3位

女子入賞者

走幅跳 8位 今西 奏乃(1) 5m24

円盤投 2位 栗島 優都紀(2) 32m46

◆ラグビー部

国体県大会

1回戦 5月26日(土)

熊谷 38(12/26)－7(7－0)早大本庄

順位戦 6月2日(土)

早大本庄 42(14/28)－5(5/0) 所沢北

第5回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会

埼玉県予選

1次トーナメント(Eブロック) 6月16日(土)

・準決勝 早大本庄 12(0/12)－10(5/5) 朝霞

・決 勝 浦和 7(7/0)－0(0/0)早大本庄

第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選

1回戦 9月8日(土)

早大本庄 17(5/12)－0(0/0)川越

2回戦 9月22日(土)

早大本庄 66(21/45)－0(0/0)本庄第一

3回戦 10月8日(月・祝)

浦和 36(17/19)－14(7/7)早大本庄

高橋組最後の試合となった浦和戦、一昨年の雪辱を果たすべく気合十分で臨みましたが、ペナルティーが重なったことなどによっていくつかのチャンスを活かすことができず、残念ながら敗れました。しかしながら、怪我でサポートにまわった選手、マネージャーさんも含めて、ノーサイドの笛が鳴るまで死力を尽くして闘った部員達を讃えたいと思います。3年生諸君はこの経験を今後の人生の糧として下さい。12月下旬からは茂木陸生君(2D)率いる新チームの新人戦が始まります。あらためて応援よろしくお願いします。ラグビーは本当に素晴らしいスポーツです。来年は日本でワールドカップも開催されます。ラグビー部はいつでも入部OKですので、少しでも興味のある人は是非グランドへ見学に来て下さい!!

◆ワンダーフォーゲル部

日帰りでの定例山行と夏山・秋山合宿を中心に、部員17名で活動しています。定例山行と秋山合宿は、関東山地での日帰りおよび1泊2日とし、夏山合宿は北アルプスに縦走登山に出かけます。日帰りでも5～6時間は歩く健脚コースを設定しています。

夏山合宿は快晴に恵まれ、槍ヶ岳や穂高連峰を含む360度の眺望を満喫しながら歩きました。秋山合宿2日目はガスに覆われて稜線では全く眺望が無く、一部が悪路でルートファインディングに難儀しましたが、晩秋の紅葉を楽しみました。今年度に企画した山行は、次の通りです。



5/27 定例1回 丸山

6/17 定例2回 蔵山

8/20～23 夏山合宿 北アルプス

常念岳・蝶ヶ岳(一の沢登山口から上高地まで)

9/30 定例3回 武甲山(中止)

11/3～4 秋山合宿 三ツ峠山(つるぎバス停から
笹子駅まで)

◇政治経済部

Bloomberg グローバル投資コンテスト

今野雄太(3 B)・畑山美帆(2 H)・増田寛太(1 G)高校
部門 第3位

仮想投資の戦略で競う大学生のレポート・コンテストが、今年度から高校生にも開放されました。3名のチームはファイナリストに選出され、10月12日(金)にBloomberg 東京オフィスで最終プレゼンテーションを行い、上記の成績を収めました。

第13回 高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」埼玉大会(11月18日@埼玉りそな銀行さいたま営業部)

今野雄太(3 B)・細井一希(3 F) 準優勝



第12回全日本高校模擬国連大会(11/17～18、国際連合
大学本部)出場

梶原悠渡(2 A)・栗原佐和(2 E)

◇茶道部

茶道部では、日ごろ自分たちの技術や知識を研鑽するとともに、茶道の良さを知ってもらうため、様々なレベルでのお点前の機会や市民の方々と交流する機会を設けています。ここでは茶道部活動の一例として、7月22日(日)にはにぼんプラザで市内の子供たちを対象に行われた市民総合大学、7月23日(月)の中国からの生徒来校での歓迎お茶会、11月7日(水)のNJC歓迎お茶会の様子をご報告いたします。

7月22日(日)市民総合大学で小学生対象に茶道講座を開催しました。お点前をして季節のお菓子とともにお茶を味わってもらったのち、グループに分かれお点前の体験をしてもらいました。

7月23日(月)中国全土から選ばれた28名の生徒が本庄学院を訪問し、学院生バディと一緒に味噌汁づくり体験、茶道教室、実験教室を行いました。この日のお菓子は寒天作りの「金魚」(梅林堂製)で、その美しさに驚きの声が上がっていました。

11月7日(水)姉妹校であるSingapore National Junior Collegeの生徒14名教員2名をお迎えして、有勝寺で歓迎お茶会を開催しました。



◇演劇部

11月3日(土)に第47回私学文化祭が埼玉会館で開催され、本学院演劇部が初参加しました。部員によるオリジナル脚本をもとにプロジェクションマッピングなどを用いた公演を行い、観客はストーリーの意外な結末や音楽・照明・映像を効果的に活用した演出、感動や笑い溢れる演技に惹きつけられていました。

◇囲碁・将棋部

第42回全国高校総文祭将棋部門大会(8/9、10)

男子団体 第5位(大将1年近藤圭、副将3年尾崎優介、
三将3年笠原大知)

第54回高校将棋選手権埼玉県大会(5/7)

男子団体戦

優勝(3年笠原大知、3年尾崎優介、1年近藤圭)

女子個人戦 第3位(3年阿南美穂)

男子個人戦 第4位(3年尾崎優介)

第31回全国高校将棋竜王戦埼玉大会(6/17)

男子個人戦 A級 第3位 3年笠原大知

第46回上毛新聞社杯争奪県アマ将棋名人戦(7/22)

優勝 1年 近藤圭

第25回埼玉県高校将棋王位戦(9/30)

男子A級 準優勝 1年近藤圭

第38回埼玉県高校王将戦(11/11)

男子A級 優 勝 1年近藤圭